

# 教養科目としての「異文化理解」

鎌田 倫子

## はじめに

2002年度前期に、筆者は教養の授業「異文化理解」を担当した。この授業は昨年度までは非常勤講師により、珍しい事物、風俗を紹介する文化人類学的な見地からなされていたという。

今年度、「異文化理解」を担当するに当たり、従前の文化人類学的な「異文化理解」から、日本人学生の「異文化に対する寛容な見方や態度を養う」、価値変容を目指す授業にしたいと考えた。そこで、クラスに留学生を招いて「留学生インタビュー」をしたり、カテゴリー（学部・学科、学年、性別等）の異なるメンバーによる異質なグループを形成し、グループによる話し合い活動をしたりして、積極的に「異文化交流」を実践するクラスを目指した。

この稿では、授業後アンケートや留学生インタビュー後の学生のコメント等をもとに、講義や授業内活動により学生の態度やものの見方にどのような変化があったかを分析し記録する。

## 1. 授業の概要

### 1. 1. 授業の目標

異文化に対する理解ある態度は、医療人として現場でさまざまな人と接するようになった時、必ず必要となる。異文化問題を自分自身の問題として自発的に考え、積極的に思いやりをもって交流できる態度を養うことを目指す。

即ち、自発的に考えることと、積極的に交流することを2大目標とした。

### 1. 2. 授業形態と特徴

2002年度前期木曜日の1限、医学部医学科と看護学科、薬学部の1、2年生79名を対象とする教養人文社会科目の授業であった。主に教師主導型の講義形式であったが、後半異質な集団となるグループを固定し、必要に応じてグループによる話し合い活動等を入れた。授業の中で、以下のような定常活動と特別活動を実践した。

#### 1) 定常活動1：ワークシートの提出

講義としてしか扱いない大人数のクラスだったが、何とかして各自が異文化について真剣に考える授業にしたいと考えた。そのため、一人一人に働きかけることができる、個人ワークシートを活用することにした。

ワークシートは出席票を兼ねていて、そこに次回の授業のキーワードについての事前の

意識や予備知識を問う質問を設けたり、授業後のコメントを記入したりして、次回の授業の始めの10分にフィードバックした。

## 2) 定常活動2：グループ活動

コースの始めの頃には、時折、近くの人と暫定的なグループを作って、話し合った。お互いの様子が少しわかった頃、異質な集団となる恒常的なグループを作った。以後、このグループで話し合いやグループ・レポート、グループ・インタビュー活動を行った。

## 3) 特別活動：留学生インタビュー

クラスの中で異文化交流をする特別活動として「留学生インタビュー」を3回実施した。初日のワークシートで「異文化交流の経験の有無」を聞いたところ、経験のある学生とほとんどない学生がほぼ半数だった。また早速、「外国に行ったことのある人が得をするような授業にしないほしい」というコメントがあった。異文化交流を、外国へ行ったこと、外国人と接触したと狭く捕らえていること自体問題であるが、授業の中で実際に異文化交流の経験を積ませる必要を痛感し、留学生インタビューを早速実施することにした。

## 2. 留学生インタビュー

異文化交流をクラスで実体験するために、留学生を招いて実際に話を聞く「留学生インタビュー」を15回の授業の中で3回実施した。留学生の日本語能力の問題もあり長時間の質疑は難しいため、1, 2回目は1回に3人の留学生を招き、スピーチの後、質疑応答を行い、3回目は、全員でのインタビューに飽き足りなくなった日本人学生の希望により、11人の留学生を招いてグループ・インタビューを実施した。

### 2. 1. インタビューの方法

質問項目は前回の講義後のグループ活動として考えて提出しておき、確認して当日返却する。

当日は、事前10分に質問の確認やワークシートの記入係、質問者と順番など、各グループで準備をする。事後20分に、教師による補足説明、各自のワークシート記入、グループ・シートの仕上げなどの整理をする。中の60分がインタビューの部分で、第1, 2回は3人ずつの留学生に10分スピーチ、10分質疑応答を繰り返し、留学生は忙しいので終わった人から退席した。第3回目は留学生11人を招き、各グループに1人配置してインタビューし、グループを交替して、2セッションのインタビューを行った。

<1・2回目> 5月16日(出席74名), 6月27日(出席71名)

1. 準備:10分 ゲストの事前紹介, ワークシートの配付, 作業の分担等。
2. インタビュー1:スピーチ10分 質疑応答10分 (質疑の後, 退席)
3. インタビュー2:スピーチ10分 質疑応答10分 (質疑の後, 退席)
4. インタビュー3:スピーチ10分 質疑応答10分 (質疑の後, 退席)

## 教養科目としての「異文化理解」

5. まとめの活動：20分 留学生が帰ってから、授業担当者からの補足説明、ワークシートの記入、グループ・シートの仕上げ等、整理する。

< 3回目 > 9月12日 (出席68名)

1. 準備：10分 ゲストの事前紹介、ワークシートの配付、作業の分担等。
2. グループ・インタビュー1：30分 1グループに留学生1人
3. 留学生入れ替え
4. グループ・インタビュー2：30分 1グループに留学生1人
5. まとめの活動：20分 留学生が帰ってから、授業担当者からの補足説明やワークシートの記入、グループ・シートの仕上げ等、整理する。

### 2. 2. 留学生インタビューの様子

#### 2. 2. 1. 第1回インタビュー

ゲストは、1. タイの女性、2. 中国の男性、3. インドネシアの男性の3人だった。

##### 1) インタビュー1 (タイ-女性)

留学生が早くから来て、スライドプロジェクター等を用意しているのを日本人学生は興味深げに見ていた。留学生は国から持ってきた観光地のスライドなどを見せて、自分の準備した日本語の原稿を読んでいた。決して滑らかな発音ではないが、その分、準備にかなりの時間を費やしてくれたことが、よくわかる、誠実なレポートだった。

その後の質疑では、一つだけ留学生が答えに詰まる質問があった、「タイのトイレは日本のトイレと同じか」という質問だった。留学生も意図がよくわからず、困っていたが、しばらくして「ウェスタン・スタイルです。」と答えた。

##### 2) インタビュー2 (中国-男性)

この学生が今回の3人のうちで最も日本語能力が高く、事前に「中国の料理」についてのスピーチ原稿をメールで送ってきた。間違いだけチェックして返した。内容は中国では地方により料理の種類も味も違うこと、ギョウザの形は宝物を表していること、医食同源という考え方があることなどであった。

食についての質問などが出た後で、「日本の侵略についてどう思うか」という重い質問が出た。留学生はしばらく答えなかった。この間の沈黙は大変重く、ぎこちないものだった。その後、ようやく「日本人は学校で歴史のことをきちんと教えた方がいいと思う」という静かな答えが返ってきた。この部分はこの日のインタビューの中で最も印象的な場面だった。

##### 3) インタビュー3 (インドネシア-男性)

最後のスピーチの留学生は、母国では厚生省のような役所の官僚であり、最も年配の社会人であった。スピーチに対しても余裕があり、ユーモアを混えて、ゆっくりとわかりやすく、イスラム教の習慣などについて話してくれた。本人はキリスト教徒であって、イスラム教徒ではないことも、説明に客観性と余裕を生んだようだ。質問も、答えに窮するようなも

のは出なかった。

初めてのインタビューということもあって、何かと慣れない面もあり、質問を準備してあったにもかかわらず質問の間隔が空いて、「他にありませんか」と促す場面が多かった。質問を考えたのが、個人で、当日、グループで質問の担当者などを決めたが、十分決める時間がなかったことにもよると思われる。

## 2. 2. 2. 第2回インタビュー

ゲストは、1. タイの女性、2. コンゴの女性、3. フィリピンの男性の3人だった。

### 1) インタビュー1 (タイ-女性)

この留学生は、コンピュータによるスライドショーを準備して、タイ料理についてスピーチしてくれた。日本人の質問が時々わからないこともあったが、誠実に答えてくれた。比較的早く終わって、退席した。

### 2) インタビュー2 (コンゴ-女性)

この学生は、アフリカの話を知りたいという、日本人学生の希望に基づき、是非にと頼んで来てもらったが、忙しくて準備ができない、何を話したらよいかかわからないと、2回断りにきた。その度に、学生がとても話を聞きたがっているのだから、準備しなくても、質問に答えるだけでいいからと言って、自分の持ち時間だけ来てもらった。

来ると、実際にはとても堂々と、「私は何も準備をしませんでした。質問して下さい」とにこやかに言い、こうした準備状況の違いも文化の相違という風に学生達は受け止めたようで、「態度全体から異文化を感じた」というコメントもあった。質問には、「コンゴの給食はどんなのですか」に対して、「給食はありません。食べない」という答えもあり、日本人学生も認識の相違を突きつけられた形だった。

### 3) インタビュー3 (フィリピン-男性)

比較的早く終わった2人の後を受けて、コンピュータのスライドショーの準備も万全のこの留学生が、残りの時間を十分にプレゼンテーションしてくれた。「フィリピンの綴りは、どれが正しいか」等、ユーモアたっぷりの逆質問も沢山あり、面白かったようだ。しかし、国際結婚が多いということと結びつけての「貧乏な女の人はお金のいる男の人が好き」という冗談めかしたコメントの中の、彼の複雑な気持ちにまで、理解が及んだ学生はいなかったようだ。

前回のやや低調なインタビューの反省に基づく今回のインタビューは、張り切った学生達が次々に手を挙げ、挙手が多すぎて当たらない、全員が質問しきれない程の活発な質疑応答となった。留学生の日本語力に対する配慮が足らず、留学生が日本人学生の質問がわからないという場面も時々あり、後で日本人の質問は難しすぎるというコメントが学生の間からも出た。しかし、今回は特にぎこちなくなるような質問はなく、活発になごやかに進行した。

### 2. 3. インタビュー後のコメントの変化

ほぼ同様の形態で実施した第1回と第2回の留学生インタビューの授業後のコメントを比較し、授業内活動としてのインタビューについて考察する。(コメントの具体例を「参考資料1」として末尾に掲げる)

まず、第1回と第2回のインタビュー後のコメントの量と質を比較してみよう。

(表1) インタビュー後のコメントの比較

	第1回コメント 74名			第2回コメント 71名		
	件数	件数比%	人数比%	件数	件数比%	人数比%
批判・反省	31	41.9	41.9	10	8.3	14.1
肯定意見	21	28.4	28.4	57	47.5	80.3
中立的意見	22	29.7	29.7	53	44.2	74.6
計	74	100.0	100.0	120	100.0	169.0

まず、コメントの分量は2回目が1回目より大きく伸びた。第2回目のコメント件数は出席人数より多くなっている。これは一人の学生がワークシートの別な部分にも2箇所以上でコメントを書いていることを意味している。即ち、一人の学生が書くコメントの分量自体が1回目より2回目は大きく伸びたことを意味している。

コメントの内容を「批判・反省」「肯定意見」「中立的意見」の3つに分類して比較した。1回目のインタビューでは順調にうまくいったというコメントは少なく、質問の仕方についての反省や、戦争について聞いたことへの批判もあり、「肯定」的コメントより「批判・反省」と分類されるコメントが多かった。質問があまり活発ではなかったと考えた学生が多く、もっとよい質問や深い質問をしたいという意見や、もっとしっかり準備したいというコメントが多くみられた。それに対し、2回目のインタビューでは、「肯定」的回答が件数でも2倍以上に増加し、活発でスムーズだったという意見が半数近く、人数比では約80%を占めた。「批判・反省」は件数で1/3以下に減り、割合としても件数全体の10%を切った。即ち客観的に見ると、2回目のインタビューは、活発に和やかに進行し、成功を納めたと認められる。

コメントの深さに関しては、1回目の「批判・反省」には、戦争発言を巡って、真剣に考察した深い意見が見られたのに対して、2回目の肯定的意見は「良かった・楽しかった」という比較的簡単なものが多く、中立的意見に、文化についてのやや深い感想が見られた。この授業の狙いとしては、異文化交流自体を体験することであるので、意見が深まらなくても、楽しく交流することで充分なのだが、インタビュー活動自体の成功と学生の考察への刺激としての活動とは相反する部分があることが明確になった。

即ち、このような授業内活動は、成功しても失敗しても学習上の効果は大きいと考えられる。活動の失敗はむしろ真剣な考察を促し、成功以上に学習刺激としての効果は大きいのである。和やかにスムーズに進行するばかりでなく、多少の摩擦やぎこちなさも学習上意味があり、あえて

避ける必要はないと思われる。今回は多少のぎくしゃく体験と成功体験とがあって、バランスもよかったようだ。

### 3. 授業後アンケート

最終講義の日に、授業担当者の個人的な授業後アンケートを実施した。回収総数73件（登録者79人の92.4%）であった。設問は、1, 2はテーマについて、3は異文化についての考え方の変化、4はテーマについて深く考えたかどうか、5は授業の方法について、6は感想となっている。テーマについては、学生の関心の傾向を知って、来年以降の授業の参考にするため、3, 4はこの授業の効果を知るためである。

#### 3. 1. テーマ

最初の設問はテーマについて、「1コミュニケーション」、「2言語」、「3文化」、「4民族」、「5社会問題」、「6留学生インタビュー」、「7その他」の項目を挙げて、1で良いトピック、2で良くないトピックを複数選択してもらい、以下の結果（表2）を得た。「7その他」を選んだものはいなかった。良いテーマとして挙げられた件数は悪いテーマとして挙げられた件数の5倍以上であり、悪いテーマは「特になし」と特記した学生も多かった。

（表2） 良いテーマ・良くないテーマ

良いテーマ	件数	%	良くないテーマ	件数	%
コミュニケーション	18	11.4	コミュニケーション	3	11.1
言語	11	7.0	言語	12	44.4
文化	33	20.9	文化	2	7.4
民俗	26	16.5	民俗	3	11.1
社会問題	19	12.0	社会問題	7	25.9
インタビュー	51	32.3	インタビュー	0	0.0
計	158	100.0	計	27	100.0

よいテーマとして、「留学生インタビュー」が最も多く選ばれ、良くないテーマとして選んだものはいなかった。2番目に好まれているテーマは「文化」で、良くないテーマとして選ばれる割合も低い。逆にあまり好まれていないテーマは「言語」で良いテーマとして選ばれる割合が一番低く、良くないテーマとして最も多く選ばれていた。

#### 3. 2. 異文化に対する考えの変化と深化

「異文化について、外国人について考えが変わったと思いますか」という質問に対する「はいとても5」「はい少し4」「いいえあまり2」「いいえ全然1」としてスケール上の印の位置を数値化すると、平均は3.9になった。

## 教養科目としての「異文化理解」

「異文化などについて今までより深く考えることができましたか」という質問に対して、「はいとても5」「はい少し4」「いいえあまり2」「いいえ全然1」としてスケール上の印の位置を数値化すると、平均は4.1になった。

分布は以下（表3）の通りである。

（表3） 考えの変化と深化

考えの変化	件数	%	考えの深化	件数	%
はいとても	9	12.3	はいとても	21	28.8
——	5	6.8	——	4	5.5
はいすこし	51	69.9	はいすこし	38	52.1
——	1	1.4	——	2	2.7
いいえあまり	7	9.6	いいえあまり	8	11.0
計	73	100.0	計	73	100.0

「考えの変化」は、「変化がない」と感じた人も少ないが、変化は「少し」が70%であるのに対して、「考えの深化」では「とても深化した」と感じる人が30%近くいたことが特筆すべき数字である。全体に、考えが「変化した」と考える人が89.0%、「深化した」と感じる人が90.1%で、どちらも90%前後の学生が自身の認識の変化を感じている。

### 3. 3. 文化についてのコメントの変化

授業の最初の時間に「異文化体験」について書いたコメントと授業後アンケートの「文化について考えたこと」というコメントとを比べてみると、学生自身が感じている変化の自己認識が裏付けられる。

（表4） 文化についてのコメントの変化

最初のコメント	件数	%	授業後コメント	件数	%
複合的観点	16	28.1	親近感	22	34.4
見えない文化	14	24.6	多様性の認識	13	20.3
見える文化	27	47.4	価値観の変化	17	26.6
（特に食べ物）	9	15.8	興味、理解	12	18.8
計	57	100.0	計	64	100.0

最初のコメントでは、文化というものを主に「目に見える事物」と捉えて書いているものが半数近くあり、中でも最も具体的で身近な「食べ物」の違いについてコメントしたものが15%を越えていた。人の態度や習慣等の見えない文化について述べたものは25%ほどで、複合的な視点から2つ以上の点を述べたものが30%弱であった。しかし、どれも極めて簡単に印象として「驚いた」とだけ述べている者が多く、自分自身の価値観と比べたり、理解や親近感を示している者は

複合的コメントの最初の5件位である。(具体的コメント例は「参考資料3」として末尾に掲げる)

それに対して、最終コメントでは、食べ物などの具体的事物について述べた者はなく、全て文化の核となる態度や価値観等について触れている。「身近に感じた」「親近感を感じた」「あまり違わない、似ている、同じだ」等、親近感の表明が1/3以上、理解や興味を示すものが約19%、多様性の認識が約20%と、合計で70%を越えるコメントが、異文化に対する理解ある姿勢を示している。また、「偏見や固定観念を意識した」「ものの見方が変わった」と、価値観が変わったことを意識しているものも約27%と、全て何らかの変化を示している。

この授業前後の二つのコメントの相違から、また自分自身の価値観を意識し、同質性や違いの原因に目を向ける記述が増えたことから、文化にたいする考察が深まったことが如実に見て取れる。

### 3. 4. 考えの変化と深化の要因

変化の要因は何かという質問に対し、選択肢からの回答は以下の(表5)の通りであった。

(表5) 変化の要因

考えの変化	件数	%	考えの深化	件数	%
留学生の話	51	44.0	留学生の話	48	36.4
写真	11	9.5	写真	15	11.4
講義	36	31.0	講義	48	36.4
話し合い	6	5.2	話し合い	6	4.5
資料	12	10.3	資料	14	10.6
その他	0	0.0	その他	1	0.8
計	116	100.0	計	132	100.0

学生が「考えの変化」の理由として挙げているのは、「留学生の話」、次いで、「講義」であり、「考えの深化」にもほぼ同じ傾向が見られる。日本人のグループによる「話し合い」では変化が感じられなかったようだ。論より証拠、実際に留学生と話すことは人間を通して異文化に触れることであり、また、具体的に生身の人間と親しく話すことは、何よりも親近感を増すことであると考えられる。



## 4. 結果と考察

### 4. 1. 目標の達成

当初掲げた目標は、「異文化問題を自分自身の問題として自発的に考え、積極的に思いやりをもって交流できる態度を養うことを目指す」というものであった。

クラスの中で実際に、「留学生インタビュー」と「グループ活動」の二つの異文化交流活動を実践したことになる。学生による授業評価にも現れている通り、「留学生インタビュー」は大好評であったし、夏休みのレポートを全員がグループ・レポートとしてグループで構成して提出した事実からみても、異文化交流をかなり積極的に実践したとみることができるだろう。留学生インタビュー後のコメントを見ても、いろいろと考えながら思いやりをもって交流していたことが窺える。

「異文化問題を自分の問題として自発的に考える」という部分はどうか。これも学生による授業評価の中の「考えが変わったか」「考えが深まったか」の質問に対して、どちらも90%程度の肯定的な答えがあったことから実践できたと考えて良いだろう。

当初の目標に関しては、「達成できた」と評価することができる。

### 4. 2. 授業方法の問題点

しかし、「異文化理解」の授業の手法に関しては、最初のうち特に、毎回書かせるワークシートに、あまり講義らしくないという批判が強かった。「講義ではなくセミナーのようだ」「学生に質問するのではなく、もっとしっかり講義してほしい」等のコメントが見られた。

こうした批判的なコメントは第1回留学生インタビューの後、少し収まった。授業の中で実際にコミュニケーションを体験するという、この授業の趣旨が理解され、通常の講義とは違うものと認知されたと考えられる。しかし、最終コメントにも見られるように、中には最後まで違和感を覚えていた学生もいたようである。即ち、この授業では、実際に異文化交流を実践し、自分自身の問題として考えることを重視する意図で授業を計画しているということを、当初から学生に対してより明確に述べ、活動を意識化する面が足りなかったと考えられる。

### 4. 3. 学生による授業後アンケートから

このような授業方法をとる理由に関して説明が足りなかったと考えたので、最後の「授業評価」で、その点について授業担当者の考えを述べ、学生の意見を求めた。

「5 授業担当者は、単なる事実を教える、「学びて思はざる」授業にはしたくないと考えました。途中で、こういうやり方は大人数の講義には向かないかとも思いましたが、何か、少しでも考えるきっかけを与えることができたらと思い、続けました。この狙いは成功したと思いますか。こういう授業の試みについて意見があったら書いてください。」

この問いは選択式ではなく、記述式だったため、全員からの回答は得られなかったが、73名中63名から回答が得られた（回答率86.3%）。

以下の(表6)はその記述式回答を分類して割合を調べた結果の表である。

表6 授業方法について

細目	人数	%	大分類	人数	%
積極的賛成	11	17.5	成功, 賛成	29	46.0
成功	9	14.3			
面白かった, 良かった	9	14.3			
考えたので良かった	4	6.3	理由付き賛成	24	38.1
グループで成功	10	15.9			
インタビューで成功	10	15.9			
保留付き, まあまあ	6	9.5	賛成ではない	10	15.9
少人数の方がよかった	4	6.3			
	63	100.0			

この結果を見ると、確かに最後まで違和感を感じていた学生も16%程度いるが、その他の大部分、84%程度の学生は概ねこの手法を支持していることがわかる。

講義の方法を補ったものとして、グループ活動もインタビュー活動も同程度に、記述式回答で良い評価を受けているし、それより少ないが「考えたので良かった」と積極的に評価している学生もいる。この結果を見ると、講義の方法には問題もあったが、異文化交流活動や個人ワークシートによる考察の深化が、その欠点を補っていたと見ることができる。(「積極的賛成」と「賛成ではない」の具体的コメントを「参考資料2」として末尾に掲げる)

## 5. その他の問題点と今後の展望

異文化交流活動の面におけるこの実践の問題点を考えると、インタビューやグループ活動において、議論が充分深まっていなかったという印象がある。人数が多すぎた恨みはあるが、批判のコメントにもある通り、問いかけに対してどのように「意見を広く求めるか」ということが今後の課題であろう。広く、深く、上手に議論を組織することを考える必要がある。

さらに、留学生インタビューでは、日本語能力の問題もあるとは言え、留学生に、もう少し異文化についての深いスピーチや質疑応答ができるように指導することが望ましい。上級の日本語クラスで、この授業と連動して「異文化について」考えたり、時には上級クラスとこのクラスが合同でグループ・ディスカッションをしたりするという実践を来年度には試みたいと思う。

また、当初から、この授業では実際に異文化交流を実践し、異文化問題を自分の問題として考えることを目的としているということを、学生に対して明確に述べ、活動について意識化させる配慮も必要である。来年度さらに実践を改善していく予定である。

教養科目としての「異文化理解」

[参考文献]

1. 金田智子2003.「異文化体験について考える」東京外国語大学テキストバンク
2. 鎌田倫子2003.「異文化理解授業」東京外国語大学テキストバンク（より詳しい実践報告を掲載した）
3. 三浦香苗2003.「日本事情」東京外国語大学テキストバンク

[参考資料]

参考資料3編を以下に添付する。

（参考資料1）「インタビュー後のコメント例」,

（参考資料2）「授業方法に対する積極的賛成と不賛成の記述式回答例」（授業後アンケートから「積極的賛成」11件,「賛成でない」意見10件の具体的記述例を抜粋したもの）

（参考資料3）「文化に関するコメント」（最初の「異文化体験」コメントと授業後アンケートの「異文化についての考え方の変化」のコメント抜粋一覧表）

[参考資料]

（参考資料1）インタビュー後のコメント例

第1回インタビュー後のコメント

質問の仕方, 進行について	件数
・もう1人日本人に話してもらえば比較しやすかった。	1
・より少人数の方がよかったと思う。	1
・スムーズに進んでよかったと思う。次々に質問が出てよかった。会の進行はだいたいスムーズに いっていたと思う。	5
・5分位の発表の後に質問する形式はよかったと思う。	1
・3人一緒に同じ質問をして, 答えてもらって比較するやり方がいいと思う。	1
・聞いたことがうまく伝わらなくて, もどかしかった。意外な言葉が伝わらなかった。次回はよく 検討したい。	2
・質問内容はできるだけ易しい文に直すべきである。	3
・以前から質問を考え修正する時間/質問事項を決める時間がもっと欲しい。	3
・質問を準備しておくことも必要かもしれないが, 話を聞いた上で疑問に思うこともある。…とは言 え, 限られた時間の中で円滑に質疑応答するには聞き方を考えなくてはいけないとも思いますが…	1
・毎回グループを作るのではなく, 特定のグループを作り, あらかじめ質問内容を統一できるよう にしてほしかった。	1
・戦争についての質問は重要なことだが, 両者の関係を悪くしてしまう可能性があり, 難しい。	1
・戦争問題については, 私達日本人は知識不足なので, 軽い気持ちで聞くべきではないと思う。こ れは相手に対して不快感を与えるだけだ。「平和を目指す」と口をそろえる日本人ではあるが, そこまで真剣に考えている日本人はいるのか疑問だ。この問題は軽いことではない。	1
・戦争とかに関する質問はやめた方がいいと思った。	1
・確かに, 戦争の質問の時には, 目に見えて場が気まずくなつたのを覚えています。こういう少々 軽めの場所で論じていいテーマかどうかというのは難しいように感じた。	1
・質問の出方がスムーズでなかった。きてくれた人に質問によって圧迫感を与えてしまう事を知った。	1
・日常生活にちなんだことを聞いたほうが留学生の人も答えやすいのではないかと思う。	1

• できれば相手からの質問が欲しいところ。また、あまり漠然とした問題、個々に差がある質問はしないほうが良い。	1
• 質問するときもっと具体的にする必要があったと思った。自分で調べられることは避けた方がよい。	2
• 質問の内容が浅かった。もっと深いことが聞けたらよかった。留学生の人達が忙しい間をぬって、準備までしてきてくれるのだから、こっちももっと準備すべきだと強く感じた。	1
• 親友の数とか個人的だし、わざわざ聞くようなことでもないように思った。	1
• 相手の国について事前に知識がある方がよい。もっと相手を知らないと感じた。	2
• 自分の質問がまだまだ甘い、核心をついていなかった。ある程度その国のことを知った上で質問せねばと思った。	1
• 質問の内容をもっとまとめて、答えにくいもの、すぐにわかるもの、個人的に知りたいだけのものは除いた方がいいと思う。自分たちでもっと調べたりして、もっと深い質問をした方が聞かれた方にもいいと思う。	1
• 忙しい時間をやりくりして来てくれたのに、その時間を延長してやり続けるのは失礼だと思う、時間内に納めないと次は来てもらえなくなる。	1

第2回インタビュー後のコメント

質問の仕方, 進行について	件数
• 自分では簡単だと思う日本語も難しいようだった/易しい日本語で質問するのは結構難しい	2
• 質問の内容を正確に伝えるのは難しい。	2
• この前よりスムーズに進行した/きちんと答えてもらったので質問の仕方がよかったと思う/質問が多く出てよかった/活発な雰囲気が出てきた	6
• もう少ししっかり準備する必要がある	2
• もっとわかりやすい言葉で質問すればより多くのことが聞けたと思う/まだ修正すべき点が多い。	2
• 価値観について聞くことは難しい。具体的なことが答えやすくていいのではないか	1
• 学生の質問は抽象的なことが多かった。「人それぞれ」と言われてそれ以上話が広がっていくことが少なかった。	1
• ささいなことでも興味ある質問を聞いてよかった/普通わからないようなことも聞けたのでよかった。	2
• 日本人は難しい熟語などを使うことが多かった/抽象的な質問は避けたい。	2
• 日本では～という風に例を出して質問するとわかりやすいんだなと思った。	1
• 明るい雰囲気でもよかった。インタビューで大切なのは雰囲気作りだと思う。	1
• 質問をもっと具体的なものにすればよかったと痛感した。	1
• 発展途上国も日本との差は思っているよりずっと小さいのだと思った。先入観をもっていた。	1

## 教養科目としての「異文化理解」

### (参考資料2) 授業方法に対する積極的賛成と不賛成の記述式回答例

#### 積極的賛成 11

- いいと思います。教える所と考える所をもっとはっきりと区別してやるとさらによくなると思います。
- 良かったと思います。一方的に聞くだけの授業だと聞き流してしまうし、あまり深く教えないため、理解が深まらないから。
- 様々な資料を読んだり、話を聞いたりして、今までの考えとは違う考えも知り、深く考えることができたと思う。
- 留学生の話を聞いたり、他の人と話し合うことによって、いろいろな考えを深めることができて、とてもよかった。
- この講義を通して、あらゆることを考えた。自分のレポートを書くとき、本屋に行ったら、異文化で習ったような内容の本がとても興味深く感じた。今まで、おもしろくないと思っていたものが読みたいと思うのはすごいことだ。
- 常に自分の生活と比較し、その違いは何なのかを考えることができたと思う。この方法はよかった。
- 出席がわりに書く用紙も含め、考えるのはたいへんだったけど、次の回にみんなの意見がみれたり、おもしろいです。
- "異文化理解"という1人1人が考察に参加すべき授業であるという特色上、この形式はよいと思う。
- 非常に分かりやすく、その後で記憶や印象に残るものがたくさんあるいい授業だったと思います。
- 少しでも思考を促すようにするのはよかったと思う／先生の体験話は興味を引きつけられました。(2)

#### 賛成ではない 10

- 時々授業形式を変えることで、学生の方もやる気が出ると思うので、そういう講義を定期的に入れていくことはいいことなのではないか。
- おもしろいけれど全員が参加するのは少しむずかしいかと思った。
- こんなものじゃないでしょうか？／68%成功だと思います／まあ、悪くはないと思う。(3)
- 少人数制ならよりよいとは思いました。もう少し全体的に流れが決まっていればわかりやすかった。少し雑談的でした。
- やはり、ふかく考えるためには本人にその意志があるか、少人数で行った方がよいと思った。
- 講義が1時間続くときついです／セミナー (2)
- 大人数向けでないことがよくわかります。全体に意見を求めるのも、上手くやらなくては意味がありません。より広く意見を求めて欲しかった。

## (参考資料3) 文化についてのコメント

## 1 授業初日のコメント

	コメント	件数
複合的コメント	・中国に行った時自転車が意外にも多い事に驚いた。ドイツ語を勉強した時、日本人は自分のためにごはんを「いただきます」と言って食べるのに、ドイツ語ではお互い相手に「よい食事を召し上がれ」という意味の言葉を言うことに感動した。なんで中国にコーラが多いのか?	1
	・インドネシアで人が走っている車の間を通過していた事で日本の治安の良さに気付かされた。	1
	・アメリカ人がくしゃみをした他人に対して「ブレスユー」と言うのを聞いて、意識の根底にキリスト教が強く根づいている事を知り、逆に私達日本人がいかに無宗教であるかを知った	1
	・高校の授業の仕方や、生徒の態度が日本と違い少人数で積極的でよい授業だった/日本では考えられないような先生と生徒の授業態度でも日本より活発で意義が大きいと思った。	2
	・留学生(男)が女子にすごくなれなれしく米国はこういった文化をもっているのかと思った。	1
	・韓国では日本と物価が違うことや、水が日本の方がきれいなこと。	1
	・TVで中国の昔の風習のてん足を見て、この風習に驚きました。	1
	・中国では全部ご飯を食べてはいけない。残しておくことが礼儀。すごきはきはきとしゃべる。オーストラリア人がすごいいっぱい食べる。フィリピンのお土産のおかしがすごい甘かった。	1
	・卵を食べる回数が少ない。太陽の色は赤じゃなくオレンジとか黄色と言う。	1
	・ガンジス川での沐浴。食文化のちがい(かたつむりエスカルゴを食べるetc.)	1
・肉にジャムのようなソースをぬって食べる。英語圏以外の国でも英語で済ませられる。	1	
・知人の知り合いの韓国人で、国のための徴兵制に対して全く抵抗がないという人の話を聞き、日本人との愛国心の違いに驚いた。	1	
・帰国子女の人が謙そんやまわりの目を気にせず自分の気持ちをはっきりと言ったこと。	1	
・インドの人が手でごはんを食べているのをテレビで見て、行儀が悪いと思った。	1	
・カナダでご飯にバターをつけて食べていた。10歳の子どもがベビーシッターをしていた。	1	
	計	16
見えない文化	・イタリア人が30分ぐらい時間におくれてきてもそれが普通だということに驚きました。	1
	・ホームステイした時家族の愛情表現のちがいに驚いた/台湾でレディーファーストがあたり前だった事/赤ちゃんのおぶり方が違う/とにかく性格が明るいことに驚きました。	4

教養科目としての「異文化理解」

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジプシーが多い。いろいろな人種の人が混ざっている。(フランス?) 1</li> <li>・国内で方言が分からず、通じなかった/大阪で代金のアクセントが違ったこと 4</li> <li>・中国人やアメリカ人は一生懸命日本語で話してきます。私達日本人は日本語で通そうとするので驚きました/外国人はよくしゃべる。 2</li> <li>・道を聞かれたりして、遠いと言ってもよく歩く。お金がなかったのかも… 1</li> <li>・中学の授業で質問に対して生徒が反応しないとすごく驚いている様子 1</li> </ul>	
		計 14
見える文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実家は電車社会で富山は車社会で生活リズムが全く違った/富山の車社会にカルチャーショックを受けた/富山の田舎さにショックを受けた。飛行機から下を見たら田んぼしかないし、夜は真っ暗/東京から富山に来て、街の雰囲気の違いに驚いた。 4</li> <li>・テレビや新聞で宗教紛争などのニュースを見たこと/TVで北朝鮮の映像を見た時/中国の交通事情は激しく日本の数倍危険という。 3</li> <li>・牛追い祭り/中国は広すぎる 2</li> <li>韓国では茶碗を置いて食べるということに驚いた。 2</li> <li>・古い建築物の塗装に原色が多い。スープが辛い/町並みに統一感がある。 2</li> <li>・フランスで野外市場を見たとき、海外旅行中に幕の内弁当が食べなくなった。スイス、フランスで自販機がなかった事。 1</li> <li>・テレビでアメリカの大きな店を見て、規模の大きさに驚いた。関東と関西の食文化の違い。 1</li> <li>・素手で食物をつかんで食事する国や女性は肌を見せてはいけない国があると知った/家でも土足。食事は手づかみで食べる/首長族の首が長すぎた。 3</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア人が食べる食事の量が多いことに驚いた/食べ物が大きい! 2</li> <li>・アメリカの食生活。お菓子がすごいボリューム&amp;甘かったです。チキンとかもすごかった。 1</li> <li>・イスラムの人が豚肉を食べなかった/人肉を食べること/ココナッツ味の黄色い米が不味かった/果物の種類が多い/中国に行った時、食べ物が、全く食べることができなかった 5</li> <li>・実家は香川で、お雑煮にあんこの入った餅を入れますが他の地域ではそんな事しないらしい。 1</li> </ul>	
		計 27
		合計 57

2 授業後アンケートより 異文化について

	異文化や外国人についての考えがどんなふうになりましたか	件数
外国人、異文化に親近感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人、異文化に親近感がわいた/少し身近に感じられるようになった/意外と日本人と近い所もある/身近に感じるようになった/日本にすくなくじんでくれている人もいと実感した。</li> </ul>	5

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思っていたより、日本と遠かったり近かったり 1</li> <li>・文化や考え方など、日本人と共通していることが意外に多かった／日本人とに ているところも多くあった／全く違うのではないということ／基本的にはみんな 同じ人間なんだと思った／どこの国の人も日本人と大きく変わっているわけ ではないということ。 5</li> <li>・今まであまり関わったことがなくて、近よりがたい感じがしていたが、すごく 近づきやすかった。明るくやさしい人ばかりだった。 1</li> <li>・外国人は自分とは違う人という感じがあったが、似たような所もあり、親近感 をおぼえた。 1</li> <li>・外国人の人と待ち合わせをすると、人によってすごく遅れてくることがあり、 かなりイラつくことがあったが、民族性というものが関連していると思った。 1</li> <li>・想像と違って、あまり異種な感じがしなかった。似ている面が多いと思った。 1</li> <li>・留学生インタビューをした時、私たち日本人に対して変わらないところの方が 多かった。 1</li> <li>・外国人についての知識があまりなかった状態からインタビューなどで直接話を 聞いたことによって外国人や異文化を少し身近に感じられるようになった。 1</li> <li>・留学生インタビューを聞いて、深い部分までは分からなかったのですが、私た ち日本人とあまり変わらないという感じを受けました。今までは考え方の違い が大きいと思っていました。 1</li> <li>・アフリカの人とか、すごく違うんだろうなと思っていたが、日本人に似ている ところもあったところ／アジアの人など思っていたより考え方が似ているとこ ろがあった。 2</li> <li>・外国人と自分（日本人）とは大きな相違があるという考えであったが、今は似てい る面も多いと思う／外国人といえども日本と同じだなと思うことが多かった。 2</li> </ul>	計 21
他者認識 多様性の認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外人は「外人」と呼ばれたくないetc.いろいろ知った。 1</li> <li>・異文化圏の人とコミュニケーションをとるときあまり気軽すぎるのもよくない。 1</li> <li>・日本にいる留学生はけっこうさみしい思いをしていることを知った。「です」 「ます」口調で話すと相手にわかりやすいことを知れてよかった。 1</li> <li>・相手の考え方が少しわかった／遠く感じる部分が少なくなった。 2</li> <li>・もう少し他国についての知識が要る。 1</li> <li>・各々の文化には各々のルールみたいなものがある／民族問題の理由が少しわかっ た／色々な歴史的背景で宗教や、性格が違うことがわかった。 3</li> <li>・いろいろな考え方を知ることができた／知らなかった国のことを少ししるこ とができる／自分の常識が異文化の人々に通じない。(特に文化の回でそう思った。) 2</li> <li>・今までアメリカ人以外の外国人とあまり接したことがなかったので、この授業 で民族ごとの特徴などがわかった／人間はみんな同じような考えををすると思っ ていたが、文化が違うとそれも違うことを知った。 2</li> </ul>	計 13



教養科目としての「異文化理解」

自身の価値観 の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各国の先入観がくだかれた／物の見方が変わったと思う／偏見のようなものがなくなった／全てを認められるようになった／偏見が少なくなって、理解したいと思えるようになった。 5</li> <li>・外国人の立場に立って物を考える事が大事と／思いこみというのは結構あると自覚できた。 2</li> <li>・今まで一線をおいて考えていたが、それがなくなった気がする。 1</li> <li>・自分の持っていた考えが一部の情報からくる誤りであったとわかった。 1</li> <li>・他の文化+外国人に対し、深く観察するようになった。 1</li> <li>・自分の中のその国の人に対する固定観念が少しなくなった。 1</li> <li>・ガチガチの日本人の視点からではなく、もう少し柔軟な視点から考えられるようになったと思う／簡単に書くのは難しいんですけど、新しい観点を持てた。 2</li> <li>・各国で生活に対する特徴（時間にルーズとか）の違いがけっこうあることが分かった。どの国も最近は近代化してきて差がなくなりつつある。（昔と比べてというけど） 1</li> <li>・今まで外国人について思っていたことが、単なる思い込みだったり、印象が180°変わったこともあったし、世界は広いようで狭いなと思った。 1</li> <li>・外国人とのちがいを知ることで、日本人の欠点などがよくわかるようになった。 1</li> <li>・少なくともステレオタイプな考え方をすぐに適用してはいけないと思った。 1</li> </ul>
計 17	
視野の広がり 興味 の広がり 認識の 深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人とはいえあまり日本人と違うことはないだろうと思っていたが、違うところはとことん違って、今まで以上に外国に対して興味をもてた。 1</li> <li>・とても身近に感じるようになったし、いろいろな文化があっておもしろくて興味が大きくなった／異文化についてこれから調べてみようという興味が湧いた。 2</li> <li>・もっと異文化を知ってみたいと思うようになった／外国の人と友達になりたいと思った。 2</li> <li>・今世界で起きている問題等、その根本にある事に目をむけて事件に関心をもつようになった。 1</li> <li>・外国人は全て外国人として同じように見ていたのが、その人の社会的背景とかに興味をもつようになった。 1</li> <li>・日本人とあまりかわらない国民性をもつ国もある。見た目は違うが中身はあまりかわらないのではないかという事。 1</li> <li>・異文化に対して根本に流れる思想を読み取ることで理解ができるようになった。 1</li> <li>・日本は島国で、独自の文化が多いと思っていたし、発展途上国、外国について、先入観で見えていたことがよくわかった。 1</li> <li>・宗教、価値観等の違いから全てを自分を基準に考えていたような自分を変えていこうと思いました。 1</li> <li>・文化の違いで考え方が違うのは当たり前であるということを実際感じる事ができた。 1</li> </ul>
計 12	
合計 63	